

2025年1月31日（金）

老球の細道851号

1月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

1月19日（日）に恒例のBリーグオールスター戦があったが、私はいつものように観戦しなかった。NBAのオールスター戦も数年前から観戦しない。理由はバスケットボールではなく「玉入れ合戦」に落ちぶれてしまったからである。今月の「月刊バスケットボール」にもNBAオールスター戦についての批判が下記のように掲載されていた。Bリーグも同じ。「選手達がケガのリスクを回避するあまり、ディフェンスは緩く競争力を欠き、長距離砲ばかり飛び交う展開が散見。昨年イーストが残した211得点、3P成功数は歴代最多。さらに両チームの合計397得点、3P成功数66本、FG成功数163本も同じく歴代最多だったが、スター選手達による激しいバトルやタフなディフェンスを求める声も多く、近年指摘され続けてきたオールスターゲームのあり方が、改めて問題視されることになった」

わが孫娘の試合（猪苗代杯）を観戦した。シュート2本、リバウンド2本、アシスト1本しか記録できなかったが、真剣にプレイする姿にバスケットの原点を見た。

1. テレビから

- ◆「1票足りなかったのはいい。まだ不完全であるということだから」〈NHKニュース：イチロー選手の米野球殿堂入りインタビュー〉：永遠に不完全でいることが長く仕事を続けられるコツかもしれない。J・S ミル曰く「満足した豚よりも不満足なソクラテスでいたい」。
- ◆「3つの教訓。①リーダーは自分の考えをはっきりさせるべし②大事を成す時は大義を持つべし③自分の力量を低く見積もるべし」〈偉人敗北からの教訓：西郷隆盛〉：番組では西郷が若者たちから担がれ、西南戦争は勝てると思いがかった。謙虚で偉大な指導者にはオーラが漂うが、偶然の勝利で思い上がった指導者には「オラオラ！」のオーラを感じる。

2. 読書から

- ◆「往々にして、敵の力が最高に強まり、こちらの困難が極度に達したときこそ、敵に不利、われに有利な情勢が始まる時なのだ」〈『孫氏の兵法』村山？著：徳間文庫〉：かつて元拓大監督森下義仁氏に愛読書は何ですかと聞いたら、間髪を入れず「孫氏の兵法」と言った。バスケのゲームにおいても起こりえる「油断」と「背水の陣」の心理戦。
- ◆「夜の来るのを待ち焦がれて昼を失い、朝の来るのを恐れて夜を失う」〈『人生の短さについて』：セネカ：岩波文庫〉：今、この瞬間を全力で楽しむ。明日は明日の風が吹く。

3. 新聞から

- ◆「他者の言葉とは、他者のである。それらを借りる時、人はほんの少し自分を超越ることができる」〈朝日：天声人語〉：人は人物と言葉との出会いで変わることができる。辛くなった時、思い出すのは親、恩師の言葉、そして故事成語、箴言、格言などで勇気づけられる。
- ◆「自分が70歳までに描いたものは取るに足らない。73歳でようやく、ものの骨格を悟りえた。だから80歳になればもっと上達するはずだ」〈朝日：天声人語〉：さすが葛飾北斎。